

No.76 >>> Contents

- 年頭所感 一般財団法人大日本蚕糸会 会頭 内藤邦男 ——— ①
- 一般財団法人大日本蚕糸会から
 - 令和4年度蚕糸功労者表彰（第78回） ——— ③
- トピックス
 - コロナ予防マスクから洗えるシルク糸「姫+」誕生へ ～敏感肌も喜ぶ365日のために～
. 株式会社伊と幸 代表取締役 北川 幸 ——— ⑤
 - 養蚕研修を体験して 株式会社 鈴生 保崎有香 ——— ⑦
 - 新規養蚕研修生の受入れ
. . . 一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 上席研究員 持田裕司 ——— ⑨
- 研究・技術情報
 - 実用蚕品種に潜む繭糸分離細繊維に挑む
. . . . 一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 副所長 栗岡 聡 ——— ⑫
- 海外情報
 - 「第26回国際養蚕委員会大会」参加報告
. 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
生物機能利用研究部門 カイコ基盤技術開発グループ グループ長 富田秀一郎 ——— ⑯
- 蚕糸偉人の足跡を訪ねる
 - 第3回「外山亀太郎」
. 学習院大学 理学部 生命科学科 教授 嶋田 透 ——— ⑰
- イベント情報 ——— ⑳
- 一般財団法人大日本蚕糸会から
 - 2022年度第3次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ——— ㉘
 - 純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 ——— ㉚
 - 活動日誌 ——— ㉜
- 蚕糸絹関係博物館一覧 ——— ㉞
- 蚕糸絹関係機関ホームページ一覧 ——— ㉟
- 統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。） ——— ㊱

年 頭 所 感



一般財団法人大日本蚕糸会

会 頭 内藤邦男

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、これからの10年を考える上で大変重要な一年であったと思います。

昨年2月突如としてロシアはウクライナに侵攻しました。欧米諸国がようやくコロナ禍から抜け出し経済活動を回復させてきましたが、その需要増加にコロナ禍のため供給が追いついていませんでした。そんな中での侵攻により、原油・エネルギー、食料、飼料肥料原料などの供給減少、供給不安が起こり、価格が高騰しました。国境があることで、輸入によるエネルギー、食料、原材料などの調達大きな影響を受けることがまさに実感された年となりました。国家とは、「領土内で物理的強制力の正統な独占使用を主張する共同体」であり、領土が国家の基本の一つであることが如実に表れたできごとでした。

また、コロナウイルス感染症は世界的にも未だ収束しておらず、中国では厳しいコロナ対策が行われています。コロナの感染拡大による供給網（サプライチェーン）、物流網の混乱にも注意が必要です。

更に、エネルギー価格などの高騰は、コロナ禍の消費減退から回復しつつあった欧米諸国を中心に急激なインフレを引き起こしました。足元のインフレ対策として欧米諸国は中央銀行の金利を急速に引き上げ、急激なドル高が生じました。原油・エネルギー、食料などを海外に依存している日本は急激な円安もあり、価格高騰など大きな影響を受けています。

これらの出来事を踏まえれば、地政学リスクや感染症リスクなどを考慮して原材料の調達方針を決定せざるを得なくなりました。これまでは専ら効率性の観点から見て最適な調達先を考えてきましたが、今やそれでは不十分との考えです。

いつでも世界のどこからでも即時に調達できることを前提に最もコストの安い調達先、供給先を確保するのがいいという効率性、コスト中心の考えから、効率性は悪くなり、コストが高くなっても安定的に調達できることを優先し、為替変動の影響を受けにくい国内での生産、原材料調達に切り替えるなどの対応が求められてくるのではないのでしょうか。想定外のショックに対応できる強靱な回復力（レジリエンス）、頑健性のある調達網を再構築するため、調達網の分散化などコスト増に見合う価格引き上げが必要になることを、ユーザー、消費者に理解していただかなければなりません。特にこれまで値上げへの抵抗感が強かった日本では厳しい経営判断となります。

近年は、世界各地で大規模な豪雨、洪水、干ばつ、山火事と異常気象ともいえる自然災害が頻繁に起きています。これを目にして、日本でも地球温暖化、脱炭素化への関心が一層高まれば、自分が身に着けるものは、石油由来の繊維ではなく天然素材である生糸を使用したものにしたいと思う消費者も増えてくると思います。そんな皆様には、「純国産絹マーク」がついた絹製品を安心してご購入いただきたいと考えています。生糸から製品づくりまで純国産であることがこのマークにより一目で確認していただけます。

スイスの民間機関である世界経済フォーラム（ダボス会議を開催）が発表した2021年世界旅行観光魅力度ランキングでは日本が117カ国中の第1位となりました。交通インフラ、文化、自然などで高い評価を受けたとのこと。円安対策、景気対策としてもインバウンド需要は重要です。養蚕、蚕糸絹文化の発信は、日本の魅力度向上にもつながると期待しています。

先が読めない不確実性の高い時代です。環境は大きく変わっていますから、今までうまくいっていたことがある日突然立ちゆかなくなることもでてきます。今や何も変えないことが、かえってリスク、失敗になってしまうのです。しかし、変化を嫌うのは人の常です。「全国シルクビジネス協議会」には、シルクに関係する、養蚕、製糸、加工、流通・販売、研究者、自治体など幅広い方々が参加しています。仲間とともに考え、変化、変革、新しいことに取り組むには格好の場となります。

大日本蚕糸会は、本年も、我が国の蚕糸絹業の発展のため、蚕糸科学技術研究所の持つ研究開発、技術指導機能、本会の蚕糸絹提携自立化支援事業も活用しながら、本会に期待される役割が果たせますよう努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

令和4年度蚕糸功労者表彰（第78回）



第78回を迎える一般財団法人大日本蚕糸会主催の令和4年度「蚕糸功労者表彰式」は、去る令和4年10月28日（金）東京都千代田区内幸町・帝国ホテル2階孔雀東の間において、総裁常陸宮正仁親王殿下御臨席のもと、挙行了しました。本表彰式では、蚕糸功績賞1名、蚕糸功労賞14名、蚕糸有功賞12名、貞明皇后記念蚕糸科学賞1件、蚕糸絹文化学習教育奨励褒賞「蚕を学ぶ奨励賞」2校が栄えある表彰を受けられました。

1. 蚕糸功績賞（1名）

町井博明 元 国立研究開発法人農業生物資源研究所理事

2. 蚕糸功労賞（14名）

宮城県

笠原博司

山形県

笹原貴宏

茨城県

市村マツ

群馬県

土屋真志

群馬県

黒澤篤

千葉県

増田康治

（国研）農業・食品産業技術総合研究機構

山本公子

（一社）日本絹人繊維物工業会

佐藤信行

(一社) 日本絹人織織物工業会	小 倉 久 英
(一社) 日本絹人織織物工業会	財 木 祥 次
(一社) 全日本きもの振興会	奥 田 彰
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会	地 主 成 利
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会	小 林 義 一
日本シルク学会	林 久美子

3. 蚕糸有功賞 (12名)

宮 城 県	阿 部 美 砂
宮 城 県	阿 部 かづ子
宮 城 県	阿 部 あい子
福 島 県	黒 津 賢 治
福 島 県	引 地 力 男
群 馬 県	茶 谷 芳 久
群 馬 県	越 田 博 正
群 馬 県	萩 原 和 憲
京 都 府	中 田 昌 義
京 都 府	木 村 裕 行
(一社) 日本蚕糸学会	佐 藤 俊 一
(一社) 日本蚕糸学会	小山田 慎 吾

4. 令和4年度(第65回) 貞明皇后記念蚕糸科学賞

「小ロット多品種に対応した蚕種製造及び配布システムの構築」
 一般財団法人大日本蚕糸会蚕糸科学技術研究所

池 嶋 智 美
 鶴 井 裕 治
 近 藤 進

5. 令和4年度(第10回) 蚕糸絹文化学習教育奨励褒賞

「蚕を学ぶ奨励賞」 (2小学校)

福島県 二本松市立大平小学校
 群馬県 富岡市立高瀬小学校

(敬称は略させていただきました)

コロナ予防マスクから洗えるシルク糸「姫+」誕生へ ～敏感肌も喜ぶ 365 日のために～

株式会社伊と幸

代表取締役 北川 幸

2022 年 11 月某日、思いがけないご連絡を京都府様から頂きました。

「中小企業優良賞の一社として候補に挙がっています。コロナ禍の逆風に対し誠心誠意、事業に励まれました。今回は同 2 年間の事業状況で審査を進めています。」とのご説明でした。確かに、弊社では社員からアイデアが出て製品開発を進めたり、IT 専門家の指導を受けつつ 3D 撮影バーチャル展示会や、伝統職人の紹介プラットフォームを開設しました。また、これらと並行して既存事業も極力続行を試みてきましたので、それら一連をご評価頂いたものと、格別の有難さを感じております。

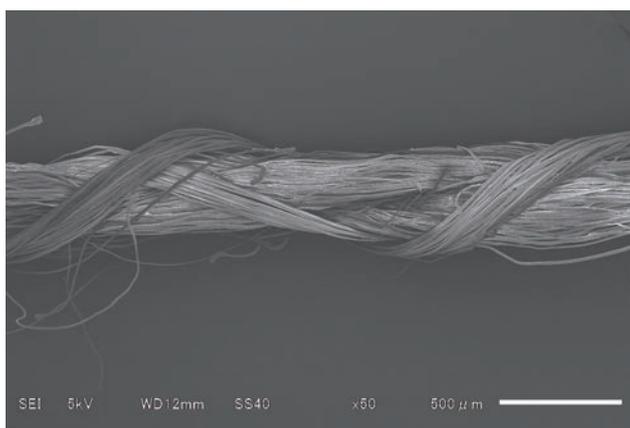
さてこの間、弊社は、(一財)大日本蚕糸会様による「国産生糸需要拡大対策事業」のご支援を受け、「姫+」(ひめぷらす)という名称の新事業を立ち上げました。コロナ感染予防用のシルクマスクが敏感肌に良いとの気づきに端を発した挑戦で、まさに「人生万事塞翁が馬」です。ちょうど、テストマーケティングとして初出展を終えたばかりですので、簡略ですがご報告させていただきます。

まず「姫+」とは、天然原料でウオッシュャブル化したシルク糸のことです。天然タ

ンパク質を浸透させた絹紡糸に、純国産生糸「松岡姫」をダブルクロスでカバリングした、特殊構造を持っており、繊維業界初と自認しております。この技術は、全国シルクビジネス協議会を通して、カシミア補修材タンパク質のシルク転用について技術提供を受けたもので、カバリング糸として、弊社の代表ブランド「松岡姫」の生糸を使っております。絹糸表面の毛羽立ちを抑制し、フィラメント糸ならではの上品な艶を合わせ持っていますので、「姫」の進化(真価)をプラス(+)表記としました。

2022 年 10 月 18 日から 3 日間開催された日本最大のファッション展、ファッションワールド東京【秋】「サステナブルファッション EXPO」に参加しました。繭「松岡姫」の生産者である若手養蚕家 本多明彦さんご自身による接客アテンドも大変効果的で貢献大でした。ホールガーメントの製品見本や、ゲージの異なる編地見本等を展示し、好反応を得ましたので、ひとまず狙い通りで、準備の甲斐ありと胸をなでおろしております。

一言で申せば、「絹のポテンシャルは大きい」という実感を持ちました。理由は 2 つあります。



「姫+」糸側面

言うまでもありませんが、シルクタンパク質を構成するアミノ酸 18 種類は、私たち人体のアミノ酸 20 種類と共通ですので、絹は生体適合性をもち、私たちの肌と極めて親和性が高いわけです。本質的に絹は、肌に優しいというのが、理由の一つめです。

従前の洗えるシルク製品は、残念ながら、シルクとしながらもその多くが石油系コーティング剤等を使用しており、それでは、せっかくの絹本来の効用や機能が半減していました。

「姫+」は純日本の絹「松岡姫」が肌に直接触れる構造の本物のピュアシルクであり、吸湿性と放湿性に優れ、消臭効果を持ち、紫外線遮蔽率が高いため、まさに人にとっての「第二の肌」です。例えば、機能性繊維として有名な化学繊維とは、比べものにならない快適性を誇ります。

理由の 2 つめは、天然原料のみで洗える機能を付与したサステナブル素材「姫+」は、持続可能な社会の実現に向けた、環境負荷をかけない、生分解性のある自然素材だという点です。欧米は日本以上に意識が進んでいます。アメリカではシルクブームだと言う方もあります。



「姫+」洗えるニット用シルク糸

余談になりますが、冬用化繊の起毛素材を家庭で洗濯した場合、1 回の洗濯でおよそ 70 万から 120 万ものマイクロプラスチックを排出しているともいわれ、それらは海洋汚染と海洋生物の誤食につながっています。また、日本のアパレルの年間生産量は 40 億着、うちたったの 10 億着が着用、残りの 30 億着は 1 年以内に廃棄されているという数字もあります。大量処分される製品のほぼすべてが化学繊維である実態を、今こそ直視すべきと考えます。

シルク糸「姫+」使用の製品（プロダクトとなった完成品）が市場に出され、多くの方に「お肌が喜ぶ 365 日」がお届けできるよう、邁進して参ります。

私自身も思春期から長らく肌トラブルに悩みました。また 3 年前には床擦れの痛々しい父を自宅で看取りましたので、思いは深いです。

皮膚疾患の改善や、敏感肌の方のお役に立ち、高齢化社会に向かう日本の社会課題の解決にも、「姫+」は一役を担えるものと思っております。

養蚕研修を体験して

株式会社 鈴生
保崎有香

弊社紹介、養蚕を始めるきっかけ

弊社、株式会社鈴生は静岡県で2008年に設立し、現在はレタスを中心に大規模露地野菜を栽培している会社です。

野菜を育てているなかで近年「本当に必要とされる食べ物とは」と考えることが多くなり、これだけ生産コストが上昇する中で、農業開始時期からずっと変わらない野菜の販売単価に限界を感じていました。

病気に感染しにくい食べ物はできないだろうか？そのような食べ物ができたら需要が伸びて単価も変わるのではないかなど新たな可能性を考えているときに、蚕のテレビ特集を拝見し、タンパク質の製造工場である蚕の魅力に惹きつけられてしまいました。

蚕なら食べて健康になる可能性がある食品ができるかもしれない、と思い養蚕への憧れを抱いていたおりに、第一工業製薬(株)様との出会いがあり、製糸以外の出口も新しく模索しながら本年度より共に蚕事業を開始する運びとなりました。

静岡でのチャレンジのため摘桑に茶刈機などをうまく活用しスマート化できないかといった目論見も持ちながら2022年の



4 齢飼育中

冬に桑園を1.2aほど有機栽培にて開墾し、現在成長を見守っております。

養蚕研修を体験して

蚕事業を踏み出したものの社内で誰も養蚕の経験がない状態からのスタートでしたので養蚕の一連の基礎知識を学ぶため(国研)農研機構様にご紹介いただき、蚕糸科学技術研究所様主催にて実施されている新規養蚕参入者研修に9月1日から40日間晩秋蚕期のタイミングで参加させていただきました。研修では錦秋×鍾和を6万頭、稚蚕期は人工飼料、壮蚕期は桑育にて飼育致しました。野生の昆虫に比べ蚕室の消毒や温湿度管理など稚蚕期は特に細かな環境整備が重要でちょっとした違いでも成長具



摘桑

合が変わってしまう蚕の繊細さへの驚きからスタートした研修でしたが、掃立時は数mmだった蟻蚕が日々大きくなっていく様子はとても愛おしく毎日の成長が楽しみでした。

研修中に養蚕に関わる各種講義も実施いただき特に桑園については仕立方法から土壌中の残留農薬、ドリフトの影響など思っていた以上に課題が多いことが印象的でした。蚕に大きく影響するピリプロキシフェン系の農薬を茶畑に使用している静岡ではまず桑園の場所選びから慎重に行わなくてはいけないことを痛感致しました。

研修中は飼育の合間に研究所の主業務である系統保存や蚕種製造に関する頭数調整や採卵、母蛾検査など通常の養蚕で関りの少ない作業も見学、お手伝いさせていただき貴重な経験となりました。昨年度より蚕糸科学研究所と合併されたことで製糸、繭質検査まで同研究所で拝見できたことも大変勉強になり国産絹糸の貴重さも改めて考える機会となりました。

また（国研）農研機構様への訪問や、研修中にお願いした新菱冷熱（株）様への見

学なども快く日程に入れていただき、全人工飼料育やスマート養蚕システムなどを拝見できたことは今後の養蚕体制を検討する上で大いに参考にしたいと思います。

4齢からの壮蚕期は屋外の蚕室に移し飼育致しましたが熟蚕近くなると数百キロの桑を一日ですべて食べてしまう姿が圧巻で、いつもよりは少し営繭率は低めだったとのお話でしたが無事に上簇し、88kgを収繭することができました。

何も経験がない中だったにもかかわらず、研究所の皆様日々丁寧にご指導いただき、とても充実した内容の濃い日々でした。知識だけでなく様々な方々とつながりを作っていただけたことも大きな財産と感じております。

現在製糸産業も含め養蚕界に様々な課題がある中で蚕事業に乗り出すことは容易ではないと推測しておりますが今回の研修内容を活かし、養蚕業界に新たな風として貢献出来るよう一歩ずつ歩んでまいりたいと思います。

新規養蚕研修生の受入れ

一般財団法人大日本蚕糸会

蚕糸科学技術研究所

上席研究員 持田裕司

養蚕研修生の受入は今回で4回目になります。初回の2018年の研修生は、長野県塩尻市から来られた花村伊知恵さんです。花村さんは畜産業から養蚕業を目指して養蚕研修に参加されました。とてもパワフルな女性でした。2回目の2019年は、愛媛県大洲市から瀧本（旧姓 菊池）慎吾さんです。5年間勤めた会社を退職して、祖父の養蚕を継承していくと決意して、この養蚕研修に参加されました。3回目の2020年は、山形県鶴岡市が町おこしとして養蚕への取り組みを目指し、その代表として板垣沙織さんが研修に参加されました。鶴岡市は、「サムライゆかりのシルク」として松ヶ岡開墾記念館があるように蚕糸業で栄えた町です。そして今年度（2022年）の4回目となる研修生は、静岡県の株式会社 鈴

生（すずなり）から保崎有香さんが養蚕研修に参加されました（図1）。野菜栽培などを行っている農業メインの会社で、これから蚕糸業への参入を目指すそうです。保崎さんも養蚕は初めてですが、若手養蚕農家との意見交換会にも今年度から参加されています。

今年度の保崎さんの研修では、農家で多く飼育されている「錦秋×鐘和」を6万頭飼育することにしました。1齢～3齢は、群馬県で使われている人工飼料「くわのはな」を用いて飼育することにしました。掃立はサンピ蚕箔に3,000頭ずつに分けて20区にしました。今回、蟻蚕を見るのが初めての保崎さんですが、掃立作業（図2）の手順を教えると飲み込みが早くスムーズ



図1 研修生の保崎さん



図2 掃立（蟻蚕の掃き下ろし）



図3 屋外蚕室の飼育台組み立て

に作業が進みました。

掃立が終わってから、屋外蚕室の飼育台の組立を行い、ここで壮蚕の4齢～5齢を飼育する説明をしたところ、掃立したばかりのあの小さなカイコが、ここ一杯になるのですかと驚いていました（図3）。後日、除菌洗浄剤を動力噴霧器により資器材に噴霧して消毒を行いました。噴霧後は約30分間時間をおいて浸透させ、その後高压洗浄機の温水でよく洗浄を行いました。これで壮蚕飼育の準備が整いました。

稚蚕（1齢～3齢期）の人工飼料育は約14日間かかりますので、作業の合間を見て、職員がそれぞれの専門について講義を行いました。著者は、人工飼料育と壮蚕桑葉育の講義を行い、池嶋研究員は蚕種の製造、竹村主任研究員はカイコの遺伝、常山上席研究員はカイコの育種、松川主任技師は桑の栽培、栗岡副所長は絹タンパク、花之内主任研究員は絹染色、岡島主任技師は製糸、齋島主任研究員は絹素材の評価、野澤主任研究員はカイコの病気など、それぞれコンパクトに1時間ずつ11課題の講義を行いました（図4）。保崎さんが特に興



図4 蚕種製造の講義

味を持っていたのが、桑の栽培方法のようです。カイコを飼育するには、安全（無農薬）な良い桑が必要であると聞き、野菜の栽培がメインの仕事である会社の薬剤散布の状況からみて、桑をどのような場所でどのように栽培すればよいのか、また、どのような目的でカイコを飼育し、会社として利用していくのか、色々発見や考える課題を見つけられたようです。

当研究所以外では、遺伝子組換えカイコの最先端技術や原蚕飼育室の飼育方法について、（国研）農業・食品産業技術総合研究開発機構を見学させていただきました。新菱冷熱（株）の収繭毛羽取機や繭切機などの見学にも行き、カイコでの先端技術開発に触れる機会も持てました。

壮蚕期は屋外蚕室で、飼育台を用いて条桑による給桑を行いました。桑の収穫方法の体験では、剪定鋏を用いた手作業による摘桑だけではなく、条桑刈取機を使った機械収穫やトラクターに乗って条桑の運搬作業も行い、桑の条を刈る条桑刈取機があることに驚いていました。また、6万頭の上



図5 上簇

簇作業（図5、6）は、職員に手伝ってもらいながら、カイコを拾い、回転簇に移し、蚕座を片付ける一連の大変さを味わいながらも、カイコが繭を作るところを見て感動したようです。

収繭では、回転簇からボール簇を取り出して、出来た繭を取り出すために収繭毛羽取機にかけると（図7）、毛羽が取れた繭が集められ出てきます。作業をしながら、綺麗な大きい繭になったと喜んでいました。繭を選繭台に乗せて、選繭（玉繭・薄皮繭・奇形繭・外部汚染繭・内部汚染繭等の繭を取り除く）を行ってから、繭乾燥を行いました。保崎さんも繭の選繭が上手になりました。



図7 収繭毛羽取り機で収繭



図6 回転簇へカイコを降り込む

屋外蚕室の上簇作業が終わったところで、消石灰の上澄み液による消毒方法と除菌洗浄剤の調製方法について野澤主任研究員が実演した後、保崎さんも実際に散布を行い、消毒後に高压洗浄機の温水を利用して蚕室洗浄を行う一連の作業を経験しました。後日、屋外蚕室の飼育台が乾いてから、解体などの後片付けを行いました。これで、40日間の掃立てから繭の乾燥までの一通りの養蚕作業の研修は無事に終了しました。生き物と天気が相手ですから必ず計画通りに飼育できるとは限りません。盛りだくさんではありましたが、保崎さんに怪我や病気もなく、カイコも健康に育ち、良好な繭をつくってくれた研修になりホッとしました。著者も養蚕独自のことばや道具など、指導することでいかに分かりやすく説明することが大事かなど再認識することが多くありました。保崎さんにも何か心に残る研修であつたら幸いです。

実用蚕品種に潜む繭糸分離細繊維に挑む

一般財団法人大日本蚕糸会
蚕糸科学技術研究所

副所長 栗岡 聡

ラウジネスとの遭遇

今から7年程前のある日、蚕業技術研究所（当時）の代田研究員から、「藍染した絹糸の様子がおかしい」と連絡がありました。数日後、藍色に染められた2束の絹糸が手元に届きました。早速、そのうちの1束を手に取り凝視すると、軽く粉を吹いたように散りばめられた白い斑点を肉眼で確認することができました。顕微鏡でその白斑を拡大してみると、白い糸屑が付着している様子がわかり（図1A、矢印）、さらに電子顕微鏡で拡大すると、微細な繊維が絡まった塊であることがわかりました（図1、B）。ところが、もうひとつの藍染糸にはこのような白斑は全く見られませんでした（図1、C）。

この白斑は、その外観からラウジネスと判断されました。ラウジネスが確認された藍染糸は、蚕糸科学技術研究所で品種育成した「朝・日×東・海」の糸を使っていました。一方、綺麗な藍染糸は原種「SK507」由来の糸でした。実は、私自身はラウジネスを実際に見た

のはこの時が初めての経験でしたので、品種の違いで染糸の仕上がり具合がこれ程まで違うことに少々驚きました。

ところで、「朝・日×東・海」の藍染試験については、その後再び試験を行う機会はなく、弊所から製造現場に配布されている「朝・日×東・海」にラウジネスが発生していないか気掛かりでした。そこで、「朝・日×東・海」を使用している絹織物の製造現場から織糸を譲っていただき、織糸の性状を調査しました。冒頭の藍染糸に認められたラウジネスは、偶然に起きた現象で、「朝・日×東・海」で恒常的には発生していないことを心の中で祈りました。しかし、残念なことに、織糸を解していくと、多数のラウジネスがみつかりました（図2、A）。しかも、藍染糸でみつかったラウジネスよりも微細繊維の充填度が高く、ぎっしりと詰まっていました（図2、B）。

こうなってくると、次は国産の主力品種である「錦秋×鐘和」の糸質が気になるところです。特に、弊所では交雑用の原種を管理

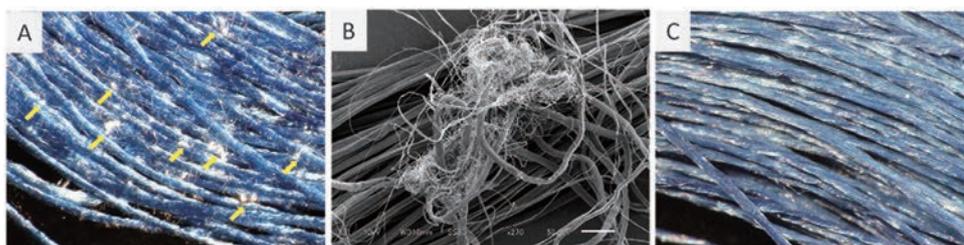


図1 藍染め染色糸とラウジネス

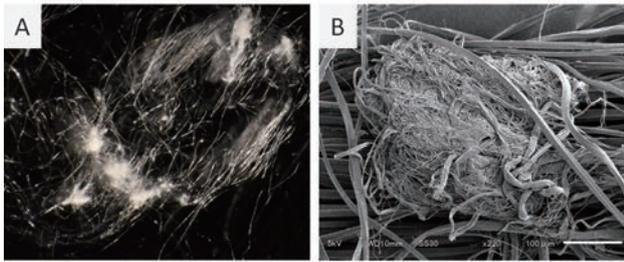


図2 「朝・日 x 東・海」の織糸とラウジネス

しているのが尚更です。早速、「錦秋 x 鐘和」を使用した純国産絹製品から糸を採取して、顕微鏡で観察すると、「錦秋 x 鐘和」においてもラウジネスが見つかりました（図3）。

フィブロインを取り囲む微細繊維とラウジネスの関係

さて、これまで織糸の調査結果について紹介してきましたが、ここから繭層の断面について話を進めることにします。実用品種の繭層断面を注意して観察すると、数 μ m径の微細繊維によって表面が取り囲まれた（図4、矢印）、少し異様な雰囲気（フィブロインがしばしば観察されます。絹業界では、ラウジネスは実態としてよく知られていますが、フィブロインの異常断面については、ラウジネスとの関係が深いにも拘らず、意外と知られていないようでした。

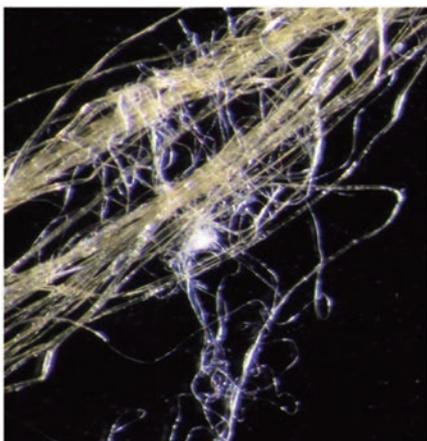


図3 「錦秋 x 鐘和」の織糸とラウジネス

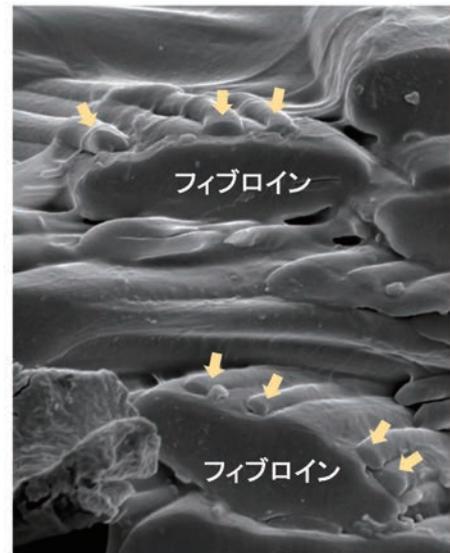


図4 微細繊維を伴う異常なフィブロイン

フィブロインに付着するこれらの微細繊維は、蚕が繭糸を吐く過程で生成されたものと考えられます。そのため、各微細繊維は主繊維のフィブロインから独立した繊維として存在しています。したがって、精練でセリシンを溶解すると、微細繊維が直ちに解き放たれて分離し（図5）、やがてこれらが絡まり合って、ラウジネスへと変化していきます。

蚕糸学用語辞典によりますと、この解き放たれた先天的な微細繊維は、ラウジネス繊維と定義されています。しかし、実際の織物に発生するラウジネスには、ラウジネス繊維のほかに、加工工程における摩擦などで後天的



図5 解き放たれた繭糸分離細繊維（黄矢印）

に発生する分裂繊維も含まれます。そこで、セリシンを溶かすだけで分離する微細繊維と分裂繊維を区別するために、前者を繭糸分離細繊維と呼ぶことにしました。

ラウジネスは、生糸の対米輸出が盛んであった大正期において、輸出生糸の品質を低下させる一因として問題となっていました。そのため、このラウジネスを改善するための研究が行われ、1950-60年代にはラウジネスフリー品種が開発されました。しかし、生糸量歩合が少なく、解舒(かいじょ)が悪いなどの理由で、残念ながら普及には至りませんでした。

一方、実用蚕品種では、繭糸分離細繊維が発生していたとしても、加工法などの工夫によって、必ずしも繭糸分離細繊維は最終製品の品質低下を招く原因にはならなかった可能性があります。それに加えて、生糸検査機関におけるラウジネス検査が1980年代に廃止されたことも重なり、実用蚕品種に発生する繭糸分離細繊維を意識する機会が今日では減ったように思われます。しかし、今回の絹糸調査によって、繭糸分離細繊維が現在の実用蚕品種において発生しやすくなっている傾向が掴めました。

繭糸分離細繊維の計量法の改良

ところで、「錦秋×鐘和」をはじめとする実用蚕品種がリリースされた頃の繭糸分離細繊維の発生状況の詳細はわかりません。繭糸分離細繊維は、継代するにつれて発生量が増える傾向にあることから、現在の実用蚕品種も、世代を重ねるうちに分離細繊維が増えた可能性は否定できません。今回の絹糸の調査結果から、繭糸分離細繊維の発生量を的確に把握するための検査方

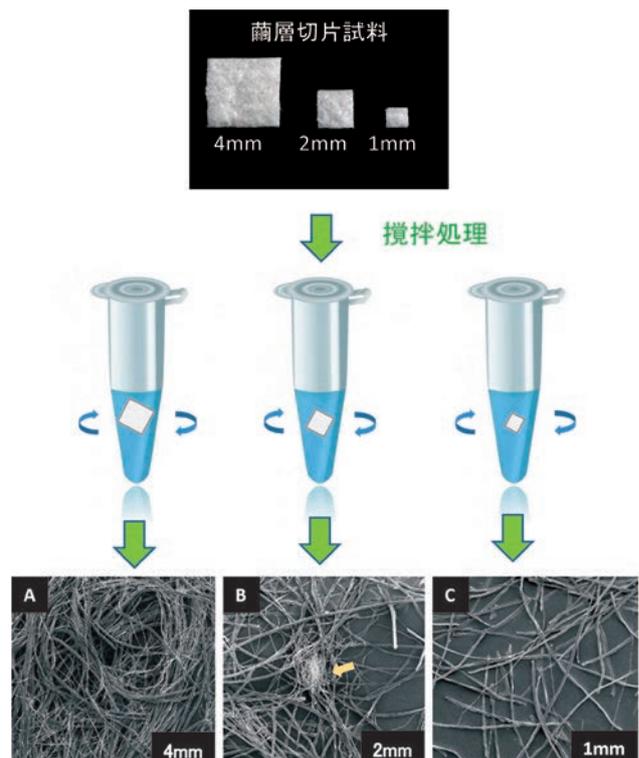


図6 試料サイズと微繊維集合体の形成

法が、改めて必要になってきました。実は、繭糸分離細繊維の検査方法は、1950年に既に考案されていましたが¹⁾、再現性や計量性にやや難点がありました。そこで、この従来法の計量精度を向上させ、簡便かつ迅速に調査が可能な方法を開発することにしました。

アイデアとしては、繭糸分離細繊維の特性である絡まり易い性質を応用しました。つまり、攪拌により繭糸分離細繊維を試験管内でクラスター化させて、ラウジネス様の微繊維集合体(Fine Fiber Assembly: FFA)を生成させます。そして、生成したFFAを計数することで、試料中の繭糸分離細繊維の発生量を把握しようという考えです。しかし、実際には、意図的にFFAを作り出すのは予想に反して難しく、様々な実験条件での検討が必要でした。例えば、繭層から切り出す試料のサイズは、FFAの形成

を左右する繊維の長さや攪拌効率に影響を与える重要な要因であることが、試行錯誤の結果わかってきました。そこで、サイズの異なる試料を用意して攪拌実験を行った結果（図6）、2 mm四方に切り出したときのみ理想的な大きさのFFAが試験管内で形成されることがわかりました（図6B、矢印）。

図7に、ある繭層に発生した繭糸分離細繊維（図7A）がFFA法により3個のラウジネス様のFFA（図7B、矢印）に変換される様子を示しました。観察画面が赤紫色に見えるのは、偏光顕微鏡を用いているため、偏光顕微鏡下のほうが自然光よりも視認性が向上し、計数作業が格段に容易になりました。

定量性については、発生量の異なる4段階の繭層試料（図8、A-D）をFFA法で調べると、発生量の増加に比例して、FFA数も増えることが確かめられ（図8、E）、繭層分離細繊維を定量的に測定できることが証明されました。

繭糸分離細繊維の原因遺伝子の解明に向けて

以上、調査数が限られてはいましたが、今回の繭糸分離細繊維の調査によって、今日の

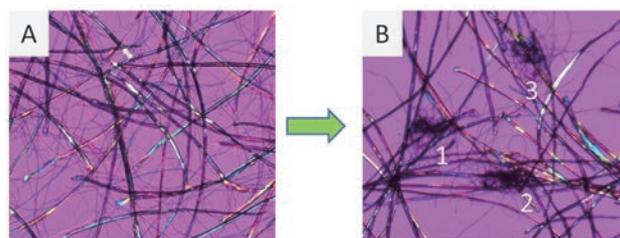


図7 FFA法による繭糸分離細繊維のクラスター化

国産実用蚕品種において、繭糸分離細繊維が予想以上に発生していることが確かめられました。そして、繭糸分離細繊維を計量するためのFFA法の確立により²⁾、繭層分離細繊維の発生メカニズムについて、遺伝的な背景も視野に入れながら調査できる準備が整いました。この新たな方法を駆使して、国産繭の糸質向上のために、繭糸分離細繊維への挑戦をまさに開始したところです。次回は、実用蚕品種における繭糸分離細繊維の発生状況をFFA法で網羅的に調査した結果などについてご報告する予定です。

引用文献：

- 1) 田中八郎：絹製品に現れる「ラウジネス」の防止策と蚕品種改良。蚕糸局技術改良課技術資料，19，1－17.
- 2) Kurioka, A. and Ikejima, S.: A simple and effective method for measuring the number of fine fibers separated from the cocoon filament of the silkworm, *Bombyx mori*, based on counting fine fiber assemblies. *J. Insect Biotechnol. Sericol.*, 90, 1-9, 2021.

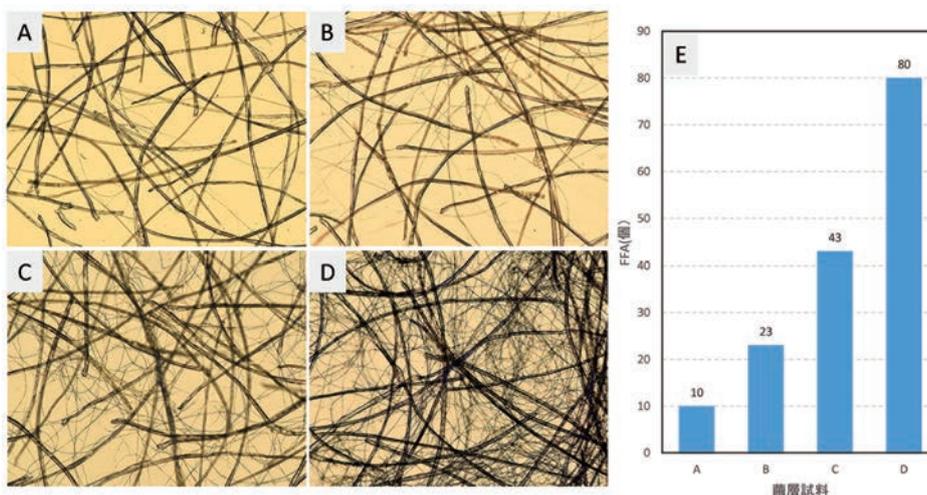


図8 繭糸分離細繊維発生量とFFA値の関係

「第26回国際養蚕委員会大会」参加報告

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
生物機能利用研究部門 カイコ基盤技術開発グループ
グループ長 富田秀一郎

はじめに

令和4年(2022年)9月7日～11日にかけて、ルーマニアのCluj-Napoca市にあるUniversity of Agricultural Science and Veterinary Medicine (Universitatea de Științe Agricole și Medicină Veterinară, USAMV)にて、The 26th International Sericultural Commission Congress(第26回国際養蚕委員会大会)が開催されました。国際養蚕委員会(International Sericultural Commission, ISC)は蚕糸業に関するあらゆる活動の発展及び改善を技術的、科学的

および経済的な観点の下に奨励促進するために1948年に設立された国際団体です。主として加盟国間の情報交換や蚕種製造・飼育・繰糸等の研修、出版物の刊行、蚕糸学に関する国際会議や学術集会の開催等の活動を実施しています。日本は1953年に加入しています。1957年には国際団体として国連に登録されました。現在加盟国は21カ国で、37の準会員の中には(一財)大日本蚕糸会も含まれます。

国際養蚕委員会大会はISCが3年ごとに開催している大会で、加盟国代表による会



大会会場での集合写真

議と同時に研究集会も開催され、各国の研究者や学生が養蚕やシルクの利用に関する最新の研究を発表して国際的な情報交換をする貴重な機会となっています。前回日本で開催した第25回大会にて今回の第26回大会をルーマニアで開催することが決まり、3年間の準備期間を経て開催の運びとなりました。今回大会のテーマは「Seritech: The New Concepts in Sericulture」です。前回の「Silk beyond the Textile」をさらに一歩進めて全方位に新たな展開を眺望する強い意志を感じさせます。

大会概要

今回大会の大きなサプライズは、開会式で国際シルク連合（International Silk Union, ISU）による自己紹介を兼ねた祝辞が（オンラインでしたが）10分間程度あったことです。ISUは中国を中心に組織された国際団体で主に民間企業によって構成されています。繭、生糸ともに世界トップの生産量を誇る中国が、ISCに加盟せずに独自の団体を立ち上げている時点で何らかの軋轢の存在が想像されますが、今回大会ではまさに「雪融け」が演出されたのではないのでしょうか。実は昨年7月に開催されたISU主催の会議にISC事務局が出席（やはりオンライン）して講演を行うとともにISCとISUの間でシルクに関するLCA（ライフサイクルアセスメント）研究の推進に関してMoU（基本合意書）が取り交わされる、という歴史的な展開があったのですが、今回大会へのISU側からの出席は、ISCとISUの協調関係が良好に持続してい

ることを示すものです。

引き続き行われた授賞式ではこれまでの顕著な研究業績を上げた研究者に対して贈られる「Louis Pasteur Award（ルイ・パスツール賞）」が3名に、蚕糸科学における優れた研究業績に対して送られる「Excellence in Sericulture Science Award（蚕糸科学優秀賞）」が4名に送られました。日本からはルイ・パスツール賞を信州大学



ルイ・パスツール賞を受賞される玉田教授

の玉田靖教授が受賞されました。

開会式からコーヒープレイクを挟んで以下の7つのセクションに分かれて研究成果発表が始まりました。3つの会場で丸2日間行われました。

1. Mulberry（桑）
2. Bombyx mori（カイコ）
3. Non-mulberry silkworms（野蚕）
4. Bacology of silkworms/Silkworms in Research（絹糸昆虫の基礎研究）
5. Post-cocoon technology（製糸・製織技術）
6. Economy, management and marketing in sericulture（蚕糸経済）

7. Sericulture in non-textile industry
(非繊維利用とシルクの新たな応用)

8. Silk processing (加工技術)

それぞれのセクションごとに Chairperson (議長) が講演や質疑の進行を仕切って口頭発表を行いました。筆者はセクション 4 の議長を務めました。

大会運営について

今回の大会はコロナウイルス感染症によるパンデミックの中で開催準備が進められたこともあり、大会事務局は大変な苦勞を強いられたようです。開催期日も当初は 5 月 18 日～21 日の予定であったものが、2 月になって急遽 9 月への延期を決めました。またこれまでになかったオンラインの参加形態を追加して、リモートで口頭発表を行うことを可能にしました。またルーマニア入国ビザの発給もスムーズにはいかなかったようです。参加登録者数は開催前日時点で 100 名 (うちオンライン 22 名) と前回大会から半減しているのは以上のような状況の影響なのだと思います。まさに with コロナ時代の国際研究集会運営の難しさを肌で感じさせられる経験ともなりました。大会運営に当たった USAMV の方々、とりわけ大会委員長の Daniel S Dezmirean 教授には感謝の念に堪えません。



メディアの取材に応える大会委員長
Daniel S Dezmirean 教授

おわりに

次回大会の開催地は未だ決定しておりません。ISC 事務局では引き続き立候補国を募っています。どこも手を挙げなかったらインドでやります、とのことでしたがなるべくほかの国で引き受けて欲しい口ぶりでした。3 年後、どこになるかは分かりませんがご興味を頂いた方は是非ご参加を検討していただければ幸いです。

第3回「外山亀太郎」

学習院大学 理学部 生命科学科

教授 嶋田 透

2022年（令和4年）は、「遺伝学の父」あるいは「遺伝学の祖」と称されるグレゴール・メンデル（1822-1884）の生誕200年にあたる年であった。さる9月13日、チェコ大使館（チェコセンター東京）においてメンデル生誕200周年記念講演会「グレゴール・ヨハン・メンデル～いつかわかってもらえる」が開催され、イジー・ファイクス教授による特別講演が行われた。私も聴講させてもらった。メンデルの生涯について、多くの写真とともに、さまざまなエピソードが解説され、興味深いものであった。よく知られているとおり、メンデルは修道院の司祭として活動したが、修道院という環境が芸術、文化、そして学問を育む場として機能していたことがよく理解できた。現在メンデルの法則として知られる主要な業績は、1865年にブルノ自然科学協会で口頭発表され、翌1866年（慶応2年）に同協会の論文誌に印刷出版された。しかし、この記念講演会の副題に「いつかわかってもらえる」とあるとおり、メンデルの偉大な業績は生前にはまったく理解されず、その再発見までに34年もの年月を要した。

1900年（明治33年）に、コレンス、ド・フリース、チェルマックの3名の科学者が、



図1. 外山亀太郎像（高島野十郎作、制作年不詳、東京大学大学院農学生命科学研究科昆虫遺伝研究室収蔵）

それぞれ独立にメンデルの法則を再発見し、この法則が世界に知られるようになった。コレンスは、メンデルと同じ材料であるエンドウを用いて交配実験を行い、一方でド・フリースとチェルマックはオオマツヨイグサとコムギを用いた交配実験を行って、いずれもメンデルと同じ結論に到達した。しかし、この当時、動物と植物は大きく異なる生物として認識されており、メンデルの法則が動物に当てはまるかどうかは、すぐには分からなかった。動物において初めてメンデルの法則を実証したのが、外山亀太郎（1867-1918）によるカイコの交配実験である。

外山亀太郎は、1892(明治 25)年に帝國大學農科大學(現在の東京大学農学部)を卒業した後、福島縣立蠶業學校(現在の福島県立明成高校)の校長などを務めた。1900年(明治 33年)から母校の東京帝國大學にて本格的にカイコの遺伝研究に取り組んだ。そこで日本種・中国種・欧州種の間で多くの交配実験を行い、繭色、幼虫斑紋、化性など多くの変異形質の遺伝様式を明らかにした。その結果、黄繭の形質が優性のY遺伝子に支配されること、幼虫の虎蚕斑も優性の単一遺伝子Zeの支配を受けることなどを明らかにした。すなわち、動物であるカイコでも完全にメンデルの法則が成立することを示したのである。外山は交配実験の成果を多くの英文論文に著しているが、1906年に東京帝国大学農科大学学術報告に掲載された英文論文が、メンデルの法則を動物で検証した最初の報告として知られている。

一方で、蚕種製造や養蚕に用いられる実用品種において重要となる繭層歩合、織度、耐病性などの経済形質は単一の遺伝子に支配されるのではなく、複数の遺伝子の複雑な相互作用で決定する 경우가多く、かつ環境因子の影響も大きい。そのためにメンデルの法則が当てはまらないことに、外山も気づいていた。典型的なのが同功繭、すなわち2頭以上が共同で営繭する形質である。外山は「蠶病豫防法第六條第一項の運命」と題する文章のなかで、同法第六条にある「蠶種製造者ハ左ニ掲グル繭ヲ以テ

蠶種ヲ製造スルコトヲ得ズ 一 二蠶以上合同シテ作りタル繭」との条文が、科学的根拠に乏しいと批判している。外山は「同功繭を造った蛹を以て製種するときはその性質は累積して同功繭を増すものであろうか。筆者は此の問題を解決せんが為に六代連続して淘汰を行ったが、其の性質は累積するものでなく、試験中単繭系統でも特に同功繭を多く生じ、同功繭系統でも同功繭を多く作らぬことがある」と記載している。実は筆者(嶋田)の研究室でも、3年ほど前に、学生が同功繭のゲノム解析をテーマとした卒業研究を行ったことがある。その結果からみても、同功繭は遺伝率がやや低く、しかも多数の遺伝子が関与する形質のようなので、原因遺伝子の特定は難しいそうである。外山は私たちよりも110年以上も遡る1909年に、自らの実験結果から同じことを予想しており、それゆえに国が定めた蚕病予防法の規定が育種上の意義に乏しいと述べているのである。

外山は1902年(明治 35年)に東京帝国大学農科大学助教授、1917年(大正 6年)に同教授へ昇任して「動物学・昆虫学・養蚕学第三講座」(現在の東大・育種学研究室)を担当した。この間の1915年(大正 4年)に「蚕の遺伝研究」により帝国学士院賞を受賞している。当時の受賞理由を読むと、蚕糸業への貢献で評価されたというよりは、純粋な遺伝学の基礎研究として高い評価を受けたことが分かる。特に冒頭に「外山亀太郎君ハ明治三十三年以後蠶兒

ニ付キ遺傳研究ヲナシ今年二至ル前ニ左記ノ重要ナル論文數編ヲ發表シタリ」とあり、外山が論文発表よりも6年早い1900年に、すでに最初の成果を上げていたことが明記されている。植物においてメンデルの法則が再発見された年である。

外山の業績が蚕糸科学として表彰対象になるのは、少し後のことになる。大日本蚕糸会が外山へ第一種功績賞を贈ったのは没後12年にあたる1930年（昭和5年）であり、恩賜賞を贈ったのは、なんと没後29年を経た1947年（昭和22年）のことである。これらの表彰までになぜ、それほど年月が経ってしまったのだろうか。メンデルの法則が再発見までに34年を要したのは、上述したとおり、発表当時、内容を理解できる者がいなかったからである。一方、外山の業績は帝国学士院賞の受賞によって生前から正当に評価されていた。大日本蚕糸会による表彰が遅くなった理由として考えられるのは、外山が51歳で早世したために受賞のタイミングがなかったことである。恩賜賞の授与が大きく遅れたのは、昭和に入って続いた長い戦争の時代に外山亀太郎の業績を振り返る余裕がなかったこともあるだろう。

Toyama, K. (1906) Studies on the hybridology of insects. I. On some silk-worm crosses, with special reference to Mendel's law of heredity. *Bulletin of College of Agriculture, Tokyo Imperial University*. 7: 259-393.

外山亀太郎 (1909) 蠶病豫防法第六條第一項の運命（同功繭は堆積性を有するものにあらず）。蠶業新報 200: 32-39（外山博士二十五周年記念事業會 (1942) 「外山博士論文抄録集」所収）。

262 K. Toyama.

INTRODUCTORY REMARKS.

The present subject was started in the spring of 1900 when I reared various breeds of silk-worms for a comparative study in the Zoological Institute, College of Agriculture, Tokyo Imperial University.

Since then I have continued this work in the Laboratory of the Royal Siamese Sericulture Department in Bangkok where I stayed from 1902 to 1905.

A part of my work is now finished and the results arrived at seem to be not without interest. In the following pages I will try to give an account of them.

In the spring of 1900, we made reciprocal crosses between a Japanese divoltine white race and a French univoltine yellow race called "Var", both of which races have bred true since I first got them in 1885. The crosses thus raised, amounting to 2,300 heads in the case of "white ♀ + yellow ♂" and 968 in the case of "white ♂ + yellow ♀," spun yellow cocoons without any exception.

In the next generation paired *inter se*, however, they displayed the white character in the following proportion :—

Total number of worms reared from one parent.	Number of yellow cocoons.	Number of white cocoons.
118	89 (75.3%)	29 (24.6%)

図2. Toyama (1906) の論文の記述の一部。黄繭を作る欧州種パール (Var) と白繭を作る日本種との交雑 F2 世代で黄繭と白繭が 3:1 に分離したことが書かれている。本文の冒頭には、この実験が1900年から東京帝国大学で行われ、1902年から1905年には外山が滞在したシャム (タイ国) の王立養蚕研究所で研究が続けられたことが記載されている。

第一種功績賞

故正五位勲五等 農學博士 外山龜太郎

明治二十五年農科大學を卒業するや尚研學の念已まず母校に止まりて蠶體の解剖生理に關する研究を為し同二十九年石渡繁胤氏と共に実験蠶體解剖を公刊し後學を裨益したること頗る多し同年福島縣蠶業學校の創立せらるゝや招かれて校長となり新進の蠶業教育を施し一面伊達蠶業史科の蒐集及考證を試み傍ら微粒子病の研究に従ひて學界に貢献し同三十二年職を辞して大學院に入り更に學術の淵奥を究め同三十五年農科大學教官として暹羅國（現在のタイ）政府の招聘に應じ同國に在ること三年歸來再び農科大學に入りて「メンデリズム」の實驗に没頭し同四十二年蠶種論の大著を遂げ學界 竝 斯業界を覺醒し同四十四年農商務省原蠶種製造所の創設せらるゝや其技師を兼ね命を帯びて歐州諸國を巡り帰朝後大學に教鞭を執る傍ら多年心血を注ぎて實驗遺傳學の研究を大成し一代交雜種の利用を高唱して本邦蠶品種の改良に資し劃時代的功績を樹て聲名を内外に博し大正四年學界最高の榮譽たる帝國學士院賞を授けらる其蠶絲業上に貢献せる勞効洵に著大なり仍て本會功績表彰規程に據り茲に第一種功績賞を追贈し以て其功績を表彰す

大日本蠶絲會總裁大勲位功二級 載仁親王

大日本蚕糸会報 第 459 号 (昭和五年 5 月号)

第一種功績賞 故正五位勲五等 農學博士 外山龜太郎

イベント情報

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各博物館では臨時閉館やイベントを中止している場合があります。詳細は各 WEB サイトなどをご確認下さい。

●岡谷蚕糸博物館 企画展

諏訪のものづくりⅡ knit in SUWA ～戦後岡谷・下諏訪のニット産業～

戦後、長野県内でも特にニット産業が盛んであった、岡谷・下諏訪地域。諏訪のものづくりを支えたニット産業の歴史と技術を展示いたします。

〈会期〉 1月7日（土）～ 3月5日（日） 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

<https://silkfact.jp/>

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●岡谷蚕糸博物館 企画展

信州の作家展 Part 4 信州草木染友禅作家 木村不二雄の世界

木村さんは、長野県須坂市を拠点とし、自然由来の染料を使う信州独自の草木染友禅の継承者の1人です。手間と時間をかけて描き出す、心和む色溢れる世界をご堪能ください。

〈会期〉 3月9日（木）～ 5月14日（日） 9:00～17:00

休館日：水曜日・祝日の翌日

〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー

〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

Tel: 0266-23-3489

<https://silkfact.jp/>

E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●日本絹の里 特別展
「寺村サチコ展 一羽化―」

絹の薄い布を用いて、女性や生命の持つ美しさや醜さを表現する繊維造形作家の寺村サチコさん。彼女によって生み出された作品は、見るひとを独自の世界に誘います。空間を活かしたインスタレーション作品をお楽しみいただきます。

〈会期〉12月17日（土）～2月5日（日） 9:30～17:00

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉群馬県立日本絹の里

〈会場〉群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●日本絹の里
「群馬の絹」展

群馬の繭・生糸を使用した、和装品や洋装品・工芸品などの絹製品の展示と販売を行います。手織りや藍染め等のワークショップ、きもの着付け体験などのイベントも同時開催します。

〈会期〉2月9日（木）～2月13日（月） 9:30～17:00

会期中無休

〈主催〉群馬県立日本絹の里

〈会場〉群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●日本絹の里 特別展
「まゆクラフトと絹の作品展」

繭の特性をいかした独創的なまゆクラフト作品とともに、工芸作家及び日本絹の里友の会会員による作品を展示します。繭、絹の持つ素晴らしさを感じてください。

〈会期〉2月18日（土）～4月10日（月） 9:30～17:00

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉群馬県立日本絹の里

〈会場〉群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●シルク博物館

ワークショップのご案内

- 1月7日（土）子ども向け「まゆ人形作り」
1月8日（日）～9日（月・祝）子ども向け「小さなシルクハンカチ染め」
1月21日（土）「くみひもストラップ作り」
1月28日（土）子ども向け「かいことシルクの勉強会」
2月25日（土）子ども向け「まわた人形・あひるの親子作り」
3月4日（土）子ども向け「かいことシルクの勉強会」
3月25日（土）「くみひもストラップ作り」

〈会期〉申し込みは電話による事前申込制（先着順）です。
詳細は、HP、シルク博物館にお問い合わせください。

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉シルク博物館

〈会場〉シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地2階

Tel: 045-641-0841

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>

★イベント開催報告

岡谷蚕糸博物館 —シルクファクトおかや— 企画展

「岡谷旅行案内 ～鳥瞰図で巡る糸都岡谷～」

会期：9月15日(木)～12月20日(火)

開催報告：

日本近代化の礎を築いた生糸の一大生産地であり、かつては「シルク岡谷」と呼び声高いまちであった岡谷市。今回の企画展では、そんなまちの様子を鮮明に描いた作品である、「岡谷市鳥瞰図」(昭和11年、吉田初三郎作)の原画を中心に他市町村の鳥瞰図や、岡谷のまちの今昔を知ることができる資料を展示いたしました。

また、まち歩きイベント「岡谷今昔さんぽ～糸都の歴史を巡る～」では、参加者の皆様と岡谷のまちに繰り出し、現存する製糸の遺産が、現在ではどのように残っているのか、または変化しているのかを見学しました。かつての岡谷だけでなく、今の岡谷の魅力を知っていただく機会となりました。

シルク博物館 秋の特別展

横浜・生糸ものがたりⅢ 「横浜から世界へ —海を渡った生糸—」

会期：10月1日(土)～11月13日(日)

開催報告：

シルク博物館では、2017年度から「横浜・生糸」ものがたりと題して養蚕・製糸・貿易をテーマに特別展を企画し、本年度は『横浜から世界へ—海を渡った生糸—』を開催しました。

会期は10月1日(土)から11月13日(日)までの38日間、3,363名の来館者がありました。浮世絵や文書、版本、生糸など約100点の資料(会期中、一部展示替えあり)を展示し、横浜と日本の発展を支えた生糸貿易と蚕糸業に携わった人々のあゆみを振り返る機会となりました。

群馬県立日本絹の里 企画展

「平安王朝の文化 ～よみがえる源氏物語の世界～」

会期：9月8日(木)～11月7日(月)

開催報告：

本展では、『源氏物語』にみえる平安時代の雅な王朝文化の世界を、立体的に表現した展示でご紹介し、1/4サイズの寝殿模型による具現化展示のほか、美しい平安装束をはじめ、王朝文化を彩る料理や楽器など、平安貴族たちの宮廷生活をご覧いただきました。文学作品では味わうことが出来ない立体的な『源氏物語』の世界をご堪能いただき、平安時代の優美な世界と、絹糸が織りなす装束の美しさや天然素材である「絹」が持つ優れた魅力について、改めて感じていただくことが出来ました。

駒ヶ根シルクミュージアム 第60回特別展

「第15回現代手織物クラフト公募展」

会期：10月20日(木)～11月27日(木)

開催報告：

全国から応募されたシルクや紬などの天然繊維の着物・反物・帯地・タペストリーの応募作品の中から入賞・入選作品47点を展示し、展示作品の写真集(頒布価格1,000円)を発行しました。関係者が一堂に集まる“表彰式・交流会”イベントは、新型コロナウイルスの影響に伴うお客様の安全面を考慮して中止しましたが、展示会はコロナ感染予防に努めつつ、開催しました。手織物作品だけの公募展を15年間継続して開催し続けるのは全国でも珍しい様で、近隣の着物好きの方々はもちろん、応募出品者の皆様方もご来場下さり、好評でした。

2022 年度第 3 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの 2022 年度第 3 次審査委員会を 2022 年 11 月 18 日（金）に開催しました。今回の申請は 5 者で、新規申請者 2 者 2 品目、使用許諾されている 3 者のうち履歴の追加 2 者 2 品目、数量の追加 1 者 3 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、5 者 7 品目に対し、11 月 25 日（金）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) 丸八生糸(株) 代表者名：塩尻忠男 (担当者：中濱典裕) 〒 602-8448 京都市上京区今出川通西入元北小路町 149 TEL：075-451-5171 表示者登録番号 247	白生地(表地) (夏物)	66 反	製品名 白生地(表地) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 北群渋川管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸(株) 製織 (株) 吉村商店
(新規) (株) 高島織物 代表者名：中須賀賢一 (担当者：北村光祥) 〒 603-8225 京都市北区紫野南舟岡町 5 番地 TEL：075-431-0111 表示者登録番号 248	白生地(表地) (紋意匠)	20 反	製品名 白生地(表地) 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 JA 甘楽富岡管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸(株) 製織 村井機業場 精練 丹後織物工業組合
(履歴の追加) 織匠万勝 代表者名：前田章 (担当者：前田健) 〒 604-8267 京都市中京区姉小路通堀川東入る鍛冶町 173-1 TEL：075-257-5747 表示者登録番号 026	先染帯地 (名古屋帯)	50 本	製品名 先染帯地(名古屋帯) 繭生産 JA 佐波伊勢崎・ JA 赤城たちばな管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸(株) 染色 北村善染工所 製織 自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(履歴の追加) (株) 伊と幸 代表者名：北川幸 (担当者：北川幸) 〒 604-8176 京都市中京区御池通室町東入竜池町 448-2 TEL：075-211-2361 表示者登録番号 035	白生地（帯地） (古代縮緬帯地)	140 本	製品名 白生地（帯地） 蚕品種 松岡姫 繭生産 JA ふくしま未来 管内養蚕農家 製糸 (株) 宮坂製糸所 製織 奥田重之織物
(数量の追加) (株) 高島屋 代表者名：村田善郎 (担当者：大西隆寿) 〒 542-8510 大阪市中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	後染反物（振袖） (五枚朱子)	12 反	製品名 後染反物（振袖） 繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製糸 松岡（株） 製織 篠春織物（株） 染色加工 (株) 千總
	後染反物（振袖） (五枚朱子)	20 反	製品名 後染反物（振袖） 繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製糸 松岡（株） 製織 (株) 竹林 染色加工 (株) 千總
	後染反物（振袖） (紋意匠)	4 反	製品名 後染反物（振袖） 繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製糸 松岡（株） 製織 (株) 竹林 染色加工 (株) 千總

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。

純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 2022年度第4次：2023年2月21日（火）

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：2023年1月25日（水）

(連絡先)

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6階

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、小林、廣瀬

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3511

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

小林：kobaei@silk.or.jp

廣瀬：hirose_takato@silk.or.jp

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 2022年11月25日(2022-第3次)現在

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
001	(株)千總	京都市中京区	後染反物(振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株)織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株)丸上	東京都中央区	後染反物(色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株)坂本屋	茨城県土浦市	後染反物(色無地)、胴裏(灰汁浸け加工)
006	(有)平原	福島県白河市	後染反物(色無地、黒紋付)
007	(株)信盛堂	東京都清瀬市	後染反物(色無地、黒紋付)
008	(株)きものアイ	新潟県十日町市	後染反物(色無地)
009	(株)上庵	岩手県北上市	後染反物(色無地、黒紋付)
010	(有)樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物(色無地、黒紋付)
011	(株)銀座もとじ	東京都中央区	後染反物(作家作品)、後染帯地、先染反物(大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地(織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物(帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物(株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有)織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株)結華	静岡県清水町	後染反物(色無地、黒紋付)
016	(有)絹回廊	東京都中央区	後染反物(色無地)
018	(有)大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物(色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢(株))	群馬県高崎市	裏地(胴裏(ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物(作家作品、紋付地)、白生地(世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸)、後染帯地((冬物・夏物):うるし糸が5%を超えるもの)、寝衣(うぶ着、おくるみ)、和装小物(袱紗)
022	宮階織物(株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物(色無地、訪問着)、先染帯地(袋帯(草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物(有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地(袋帯、名古屋帯、袋帯:金銀糸が5%を超えるもの)、先染反物(御召類、着尺)、後染反物(色無地)
027	(有)織道染塩野屋	京都府亀岡市	洋装品(マフラー、シャツ、ニット(ウォーマー、腹巻、手袋、靴下))
028	(株)丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物(江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地、訪問着、留袖、色留袖)、後染帯地、白生地(表地)
029	(株)むらかね	青森県八戸市	後染反物(色無地、黒紋付)
030	(株)高島屋	大阪市中央区	後染反物(振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地(長襦袢地、胴裏)、ニット(靴下)、風呂敷
031	(株)さが美	神奈川県平塚市	後染反物(黒紋付(冬用・夏用)、色無地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地、訪問着)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	柳 崇 (染織家 柳崇)	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	児玉京子 (染織家 児玉京子)	沖縄県竹富町	先染反物、先染帯地
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、服飾品 (ストール)
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒紬))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)、白生地 (加賀友禅用)、先染着尺 (加賀友禅用)、和装小物 (帯揚)
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
069	(株) 紅輪 ((株) 紅輪 まるやま・京彩 グループ)	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)、白生地
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) あきやま	宮崎県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井絞 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(有) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、絹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着、紋意匠))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)、先染反物 (飯田紬)、白生地着尺 (信州紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、褌、マフラー (手織り)
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市下京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、 パジャマ、袱紗
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、服飾品 (ショール)
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、 服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカバー、レグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袱紗、ネクタイ、帯地 (白塩瀬))
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福総織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)、服飾品 (ショール)
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物(置賜紬)、服飾品(ストール)
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物(大島紬)、先染帯地(大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地(八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット(腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物(小紋(変一越))
182	京呉服好一(株)	京都市北区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏(パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物(小紋(変一越))
185	マテリアル ローブ 磨	東京都練馬区	後染反物(小紋(変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物(緋着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地(表地)、帯締、羽織紐、帯締(金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの(株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地(表地、夏物表地)
189	ニット青木(株)	東京都品川区	ニット(スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物(綾御召(男物、女物)、市松綾御召(草木染め)、もじり織(草木染)、もじり織、裏地(紬八掛、駒八掛、紬駒八掛、紬綾八掛))、服飾品(先染ストール(綾織草木染、もじり織草木染))
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物(小紋(変一越))
193	アトリエITO 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
197	(株) 嗟が野	埼玉県川越市	白生地(変り縮緬)、先染反物(大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	服飾品(ストール)、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物(ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地(紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物(本加賀訪問着)、先染反物(大島紬、御召)、先染帯地(袋帯)、先染反物(御召)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物(訪問着・色無地)、白生地(表地(紋意匠))
202	メーカーズシャツ鎌倉(株)	神奈川県鎌倉市	ニット(肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地(胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物(小紋(変一越、紋意匠))
205	富士新幸(株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物(色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地(変一越)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬、本場大島紬 (12 マルキ、15 マルキ))
214	村江菊絵 (菊江) (村江菊絵)	東京都目黒区	先染帯地、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	服飾品 (ストール)
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)、白生地 (帯地)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地・羽二重)
227	(株) 大醐	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)
231	(有) 綵巧	京都市北区	先染反物 (御召)、先染帯地 (名古屋帯 (組帯))
232	ウライ (株)	京都市下京区	後染反物 (小紋)、後染帯地 (袋帯 (表地のみ))
233	大橋メリヤス	群馬県桐生市	服飾品 (ニットストール)
234	宮田織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
235	(有) 中彦	京都市上京区	先染反物 (御袷 (五条袷))
236	大月俊幸	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
237	久保原由佳理	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
238	(株) やしま	広島県広島市	白生地 (表地 (紋意匠))
239	(株) 長谷川	京都市上京区	先染反物 (西陣お召)
240	永見 (株)	鳥取県米子市	白生地 (表地 (紋意匠))
241	京都和装 (株)	京都市下京区	白生地 (表地 (紋意匠))
242	(株) 前田源商店	山梨県富士吉田市	服飾品 (スカーフ、ストール)
243	近江真綿工房 原田	滋賀県米原市	寝具寝装品 (真綿ふとん (国産近江真綿ふとん))
244	昭和西川 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (真綿ふとん)
245	大迫織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬)
246	玉城柳子	沖縄県南城市	先染反物 (着尺 (首里織))、先染帯地 (首里織)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
247	丸八生糸 (株)	京都市上京区	白生地 (表地)
248	(株) 高島織物	京都市北区	白生地 (表地)

月日	活 動 内 容 等
10/27	「カイコを育てよう！ 2022 ー全国蚕糸関係博物館横断キャンペーンー」 報告会 (WEB 会議)
10/28	第 78 回蚕糸功労者表彰式 (帝国ホテル)
11/2	シルクの特徴提供手法検討会等 (全国シルクビジネス協議会の農林水産省補助事業関係、リアル・WEB 併用会議)
11/9	「きもの日」オンラインシンポジウム 2022 ～国産生糸が紡ぐ「きもの」の物語～
11/18 ~ 20	「伝統工芸ふれあい広場・秋田」への協力 (秋田県)
11/18	純国産絹マーク審査委員会 (2022 年度第 3 次) (リアル・WEB 併用会議)
12/10 ~ 11	シルクサミット 2022 in 鶴岡 (山形県)
12/14	若手養蚕農家との意見交換会 (WEB 会議)
12/16	シルクの特徴提供手法検討会 (全国シルクビジネス協議会の農林水産省補助事業関係、リアル・WEB 併用会議)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
野外博物館北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12-2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
群馬県立世界遺産センター（セカイト）	370-2316	群馬県富岡市富岡 1450-1	0274-67-7821
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F～8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
桑都日本遺産センター 八王子博物館	192-0904	東京都八王子市子安町 4-7-1 サザンスカイタワー 3 階	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市緑区田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
相模原市立博物館	252-0221	神奈川県相模原市中央区高根 3-1-15	042-750-8030
海老名市立郷土資料館「海老名市温故館」	243-0405	神奈川県海老名市国分南 1-6-36	046-233-4028
一般財団法人繊維産業会レインボープラザ(愛川繊維会館)	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 4410	046-281-0356
愛川町郷土資料館	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 5287 (県立あいかわ公園内)	046-280-1050
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館(織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房(織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館(絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業(株)内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号(上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ(株)内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館(松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館(シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
(公財)手織技術振興財団・織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884

名 称	〒	住 所	電 話
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ(株)周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業(株)内	0772-72-0307
上垣守国(うえがきもりくに)養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711
美馬蚕糸会館	771-2107	徳島県美馬市美馬町谷口 5-1	0883-63-2502
アヤミハビル館	907-1801	沖縄県八重山郡与那国町与那国 2114	0980-87-2440

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター
(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<http://www.tanko.or.jp>
<http://www.nishijin.or.jp>
<http://www.tafs.or.jp>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougeihin.jp>
<http://takaraginu.com>

【大学・試験研究機関】

(国研) 農業・食品産業技術総合研究機構 <http://www.naro.affrc.go.jp>
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫学研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>
(国) 宇都宮大学農学部分子昆虫学研究室 <http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/>
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科蚕学研究室 <http://www.tuat.ac.jp/~kaiko>
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp>
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>
(国) 九州大学大学院農学研究院遺伝子資源開発研究センター家蚕遺伝子開発分野
<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sanshi/insect/top.html>
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.com>
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学技術研究所 <http://www.silk.or.jp>

【学 会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<http://jswsmo.appspot.com>

【博物館】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>
<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム

<http://komagane-silk.com/>

織成館（京都市上京区）

<http://orinasukan.skr.jp>

高崎市染料植物園

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>

群馬県立歴史博物館

<http://grekisi.pref.gunma.jp>

岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）

<http://silkfact.jp>

はたや記念館ゆめおーれ勝山

<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

美馬蚕糸館

<https://mimasanshikan.wixsite.com/mimasanshikan>

【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>

群馬県立世界遺産センター

<https://worldheritage.pref.gunma.jp/whc/>

ぐんま絹遺産

<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>

上毛新聞社関連記事

http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html

統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	46
(2) 養蚕農家数の推移	47
(3) 繭生産数量の推移	48
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	49
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	50
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	
(11) 製糸工場の原料繭需給	51
(12) 製糸工場の操業状況	52
(13) 生糸在庫数量の内訳	53
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	
(15) 生糸の原産国別輸入数量	
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	
(18) 絹織物生産数量	54
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	55

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	57
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	58

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 Item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
暦年 Calendar Year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2010	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013	486	168	346	0.4	9	35	32.0	2,940
2014	393	149	379	0.4	9	35	—	2,734
2015	368	135	367	0.4	8	30	—	2,316
2016	349	130	372	0.3	8	26	—	2,243
2017	336	125	372	0.3	8	28	—	2,195
2018	293	110	375	0.3	8	46	—	2,113
2019	264	92	348	0.3	8	36	—	1,939
2020	228	80	351	0.2	8	31	—	1,214
2021	186	61	328	0.2	7	20	—	1,279
前年比(%) 2021/2020	81.6	76.3	93.47	100.0	87.5	64.5	—	105.4

資料 ・ 2008年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

- ・ 2009年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査、2011年以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。
- ・ 2009年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査、2018年11月以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。
- ・ 2008年以前の絹業は経済産業省調査であり、2009年以降絹業は(一社)日本絹人織機物工業会調査である。

(注) 2006年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、2002年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・ Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)

- ・ National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009). The Dainippon Silk Foundation (after 2011)
- ・ Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009) The Dainippon Silk Foundation (after Nov. 2018)
- ・ The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008). Japan Silk & Rayon Weaver's Association (after 2009)

Note: Silk Fabric Production from 2006 includes spun silk fabrics.

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

項目 暦年 Calendar Year	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
2000	3,280	2,970	2,170	2,700
2005	1,591	1,420	1,061	1,345
2010	756	650	494	637
2011	627	562	358	531
2012	571	514	319	462
2013	486	422	260	399
2014	393	359	230	328
2015	368	323	221	313
2016	349	310	209	310
2017	336	307	201	280
2018	293	254	179	262
2019	264	233	153	224
2020	228	205	129	188
2021	186	161	98	156
前年比(%) 2021/2020	81.6	78.5	76.0	83.0

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

項目 Item 曆年 Calendar Year	年計 Annual total				1戸当り取繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕
	Annual total	Spring silk-worm	Early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	Early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
2015	135	49	32	54	368	151	147	174
2016	130	47	32	50	372	153	155	162
2017	125	47	29	49	372	153	144	175
2018	110	41	24	46	375	161	134	176
2019	92	35	22	35	348	150	144	156
2020	80	31	19	30	351	151	147	160
2021	61	22	15	24	328	137	153	154
前年比(%) 2021/2020	76.3	71.0	78.9	80.0	93.5	90.4	103.9	96.4
2021年 構成比(%)	100.0	36.1	24.6	39.3				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡 数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫 数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
暦年 Calendar Year									
2015	378	6,479	0	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	0	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,557	1,747	14,560	245	4,897	4,785
2018	339	5,038	1	5,793	1,330	11,092	213	4,151	4,854
2019	269	4,852	4	5,018	1,429	10,920	165	3,893	4,750
2020	203	2,443	0	3,009	1,066	6,226	167	2,551	3,635
2021	160	3,067	0	3,425	868	6,136	144	2,753	3,850
2020 - 1	20	549	0	588	1,410	1,178	15	341	275
2	23	124	0	166	1,391	303	41	139	378
3	19	682	0	750	1,342	962	37	262	398
4	23	—	0	134	1,231	662	15	233	307
5	16	280	0	242	1,285	854	10	244	223
6	14	209	0	146	1,362	422	3	169	227
7	15	24	0	97	1,304	283	11	256	268
8	11	55	0	100	1,270	249	4	121	239
9	9	73	0	151	1,201	308	4	214	333
10	16	101	0	142	1,176	215	7	181	346
11	15	63	0	149	1,105	305	11	247	333
12	22	283	0	344	1,066	487	9	146	308
2021 - 1	11	123	0	141	1,059	428	6	273	286
2	14	118	0	175	1,016	504	4	199	299
3	16	371	0	414	989	339	7	223	379
4	12	5	0	121	885	451	5	253	363
5	12	506	0	479	924	460	20	202	351
6	13	178	0	200	915	619	13	251	377
7	13	266	0	303	891	772	12	242	281
8	12	244	0	234	913	585	9	188	198
9	12	389	0	470	844	433	9	251	231
10	14	219	0	236	841	451	14	216	390
11	18	323	0	313	869	480	21	231	306
12	13	322	0	336	868	614	24	218	390
2022 - 1	12	379	0	436	823	588	2	264	233
2	8	222	0	199	854	484	32	162	316
3	19	541	0	481	933	667	33	178	348
4	15	—	1	159	788	412	30	214	355
5	13	500	0	476	825	857	7	256	326
6	15	426	0	313	953	703	7	256	355
7	12	291	0	333	923	893	19	227	330
8	16	473	0	411	1,001	764	17	224	290
9	16	149	0	222	944	688	10	248	283
10	187	—	0	—	—	642	4	262	323

資料：(A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局（～2010.3） 中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）
中央蚕糸協会（2012.12～2018.10）（一財）大日本蚕糸会（2018.11～） (B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
（～2010.3）、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11)、
Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)
(B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 暦年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Production	輸入 Import					輸出 Export				内需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	計③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics		二次 The Second			
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	240	45	0	195	7	12	14	162	195	15	0	0	9	6	180	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	21	0	0	11	10	172	45
2018	205	45	0	160	5	11	8	135	160	26	0	0	10	16	134	45
2019	206	45	0	161	5	11	8	137	161	25	0	0	10	15	136	45
2020	182	45	0	137	2	6	6	123	137	27	0	0	8	19	110	45
2021	171	45	0	126	3	6	6	111	126	24	0	0	8	16	102	45
前年比 (%) 2021/ 2020	94	100	—	92	150	100	100	90	92	90	—	—	100	85	93	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

備考：2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2015	116	159	115
	2016	115	110	120
	2017	103	120	103
	2018	92	117	78
	2019	89	97	70
	2020	72	73	69
	2021	55	57	67
2020 -	1	0	7	63
	2	0	8	55
	3	0	7	47
	4	1	8	40
	5	0	5	35
	6	14	5	44
	7	12	5	51
	8	13	5	59
	9	3	3	59
	10	24	6	77
	11	5	6	76
	12	1	8	69
2021 -	1	0	4	65
	2	0	4	60
	3	0	5	54
	4	0	4	50
	5	0	4	46
	6	14	5	55
	7	6	5	56
	8	10	5	61
	9	3	5	59
	10	19	5	73
	11	4	7	70
	12	1	4	67
2022 -	1	0	4	62
	2	1	3	60
	3	0	7	53
	4	0	5	48
	5	1	5	44
	6	10	5	49
	7	8	5	52
	8	7	5	54
	9	1	6	49

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).

Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks：1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2015	8	110	33	30	263	53
	2016	8	110	29	26	267	55
	2017	8	110	31	28	266	59
	2018	8	74	34	46	253	57
	2019	8	74	27	36	239	51
	2020	8	74	23	31	218	48
	2021	7	74	15	20	214	43
2020 -	1	7	74	32	43	19	50
	2	7	74	26	35	20	49
	3	7	74	27	36	22	49
	4	7	74	29	39	20	50
	5	7	74	27	36	15	50
	6	8	74	19	26	14	53
	7	8	74	17	23	22	52
	8	6	74	17	23	14	38
	9	6	74	15	20	19	37
	10	6	74	9	12	22	37
	11	7	74	27	36	14	48
	12	7	74	28	38	17	48
2021 -	1	6	74	16	22	14	38
	2	6	74	21	28	14	38
	3	6	74	21	28	18	35
	4	6	74	15	20	16	35
	5	6	74	13	18	15	35
	6	7	74	12	16	22	37
	7	7	74	12	16	22	37
	8	7	74	7	9	17	37
	9	7	74	12	16	18	43
	10	7	74	12	16	22	44
	11	7	74	18	24	17	43
	12	7	74	16	22	19	43
2022 -	1	6	74	10	14	15	35
	2	6	74	14	19	14	35
	3	6	74	17	23	23	35
	4	6	74	19	26	19	35
	5	6	74	16	22	17	34
	6	6	74	12	16	21	34
	7	6	74	13	18	22	36
	8	6	74	13	18	18	33
	9	7	44	18	41	21	41

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)

中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Central Raw Silk Association(2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

Remarks：1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers
暦 年 Calendar Year					
	2015	1,410	94	1,316	
	2016	1,406	130	1,276	
	2017	1,747	156	1,591	
	2018	1,330	230	1,100	
	2019	1,429	238	1,191	
	2020	1,066	178	888	
	2021	868	170	698	
2020 -	1	1,410	196	1,214	
	2	1,391	178	1,213	
	3	1,342	178	1,164	
	4	1,231	186	1,045	
	5	1,285	194	1,091	
	6	1,362	181	1,181	
	7	1,304	181	1,123	
	8	1,270	180	1,090	
	9	1,201	170	1,031	
	10	1,176	166	1,010	
	11	1,105	168	937	
	12	1,066	178	888	
2021 -	1	1,059	182	877	
	2	1,016	183	833	
	3	989	189	800	
	4	885	183	702	
	5	924	186	738	
	6	915	186	729	
	7	891	184	707	
	8	913	185	728	
	9	844	182	662	
	10	841	174	667	
	11	869	175	694	
	12	868	170	698	
2022 -	1	823	163	660	
	2	854	160	694	
	3	933	163	770	
	4	788	160	628	
	5	825	155	670	
	6	953	146	807	
	7	923	131	792	
	8	1,001	134	867	
	9	944	135	809	

資料：農林水産省生産局(～2010.3) 中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)
中央蚕糸協会(2012.12～2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11～)

Source: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).
Central Raw Silk Association (2012.12～2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11～)

(18) 絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit：1,000sq.meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics								
		広巾織物 Double Width				小巾織物 Single Width				その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先練 (先染) Dyed Yarn		
年 月 Year & Month										
暦 年 Calendar Year										
2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458	
2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449	
2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422	
2018	2,113	1,151	619	45	487	578	272	306	384	
2019	1,939	1,128	583	43	502	521	242	279	290	
2020	1,214	697	460	15	222	364	169	195	153	
2021	1,279	839	586	9	244	298	90	208	143	
2020 -										
1	123	67	42	2	23	37	16	21	19	
2	122	63	43	2	17	40	19	21	19	
3	131	69	48	2	19	42	19	23	20	
4	121	66	44	2	20	38	20	19	17	
5	87	51	37	1	13	24	12	12	12	
6	87	53	33	2	18	25	11	13	9	
7	88	56	33	0	22	25	11	14	7	
8	71	44	32	0	12	21	9	12	6	
9	85	48	35	0	13	27	13	13	10	
10	90	52	36	1	15	27	12	15	11	
11	101	63	38	1	24	28	12	15	9	
12	108	65	37	1	27	29	12	17	13	
2021 -										
1	90	56	38	1	18	25	9	16	9	
2	95	59	40	1	18	26	10	16	9	
3	98	57	43	1	13	30	10	19	12	
4	106	64	50	0	13	29	11	17	14	
5	109	71	48	1	22	27	11	16	11	
6	123	79	51	0	28	29	11	18	14	
7	109	69	52	1	16	29	10	19	10	
8	97	58	46	0	12	27	10	17	11	
9	111	70	53	1	15	29	11	18	13	
10	118	75	54	1	20	28	11	17	14	
11	131	89	54	1	34	29	11	18	13	
12	133	93	57	1	35	29	11	17	11	
2022 -										
1	104	71	51	0	19	22	7	15	12	
2	95	59	40	1	18	26	10	16	9	
3	124	87	66	0	21	24	6	18	13	
4	126	87	70	0	17	25	6	19	15	
5	123	89	64	0	25	23	5	18	11	
6	145	105	76	0	29	24	6	18	16	
7	121	82	65	0	18	24	7	17	15	
8	112	78	63	0	15	23	6	17	11	
9	104	70	47	0	23	24	6	18	11	
10	118	81	55	0	26	24	6	18	13	

資料：(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

備考：1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 絹織物生産数量の数量は2018年～2021年分までデータ補正がある。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6). Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

Remarks：1. Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

2. As for the production quantity of silk fabrics, data in the year between 2018 and 2021 have been corrected.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8
2018	2,113	96.3	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4
2019	1,939	91.8	253,429	89.8	27,584	76.0	380,224	89.1
2020	1,214	62.6	154,333	60.9	10,852	39.3	260,360	68.5
2021	1,279	105.4	153,627	99.5	12,321	113.5	303,511	116.6
2020 - 1	123	79.3	15,165	95.7	1,259	50.2	24,411	76.5
2	122	71.4	21,802	87.3	1,707	61.3	26,233	81.7
3	131	80.8	17,996	82.3	1,792	65.7	28,783	83.2
4	121	69.4	18,393	78.9	1,172	44.8	20,179	59.7
5	87	49.6	12,661	85.6	669	26.5	11,341	34.2
6	87	52.1	9,326	36.0	690	27.3	21,317	61.0
7	88	53.9	8,532	39.9	361	15.3	18,561	65.4
8	71	52.6	7,147	42.0	613	33.9	16,344	57.7
9	85	56.9	10,011	41.1	451	20.6	20,505	60.3
10	90	55.1	10,443	54.4	645	32.1	24,142	85.1
11	101	60.5	11,523	50.1	874	47.3	24,658	82.2
12	108	68.9	11,334	51.9	619	36.9	24,280	79.1
2021 - 1	90	73.3	9,930	65.5	773	61.4	19,619	80.4
2	95	77.5	11,810	54.2	910	53.3	20,969	81.0
3	98	74.7	11,526	64.0	1,129	63.0	26,690	92.8
4	106	87.5	14,265	77.6	755	64.4	25,705	129.1
5	109	125.0	11,586	91.5	952	142.3	24,566	215.7
6	123	141.4	13,201	141.6	870	126.1	29,082	136.5
7	109	123.2	14,672	172.0	938	259.8	24,811	133.7
8	97	136.0	10,040	140.5	1,072	174.9	24,161	147.8
9	111	131.0	13,545	135.3	1,092	242.1	24,360	118.8
10	118	130.9	15,194	145.5	1,038	160.9	26,324	107.9
11	131	130.3	13,557	117.7	1,463	167.4	26,748	108.5
12	133	123.2	14,301	126.2	1,329	214.7	29,272	120.9
2022 - 1	104	115.2	10,399	104.7	983	127.2	22,277	113.5
2	95	100.0	12,746	107.9	982	107.9	20,744	98.4
3	124	126.9	12,376	107.4	863	76.4	25,113	93.8
4	126	118.8	14,948	104.8	1,111	147.2	26,693	101.3
5	123	113.2	11,207	96.7	1,127	118.4	22,216	89.5
6	145	118.2	14,645	110.9	1,237	142.2	26,282	90.4
7	121	111.3	14,540	99.1	996	106.2	22,233	91.3
8	112	116.1	11,938	118.9	939	87.6	20,915	86.3
9	104	93.4	13,993	103.3	845	77.4	24,163	98.3
10	118	100.1	14,932	98.3	1,109	106.8	23,440	88.9
11			13,737	101.3	961	65.7		

資料 : 絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計 (2020.8～)

主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考 : 1. 西陣は京都府織布生産動態調査数値の修正により前年比が合わない場合がある。
2. 2018年～2021年分までデータ補正がある。

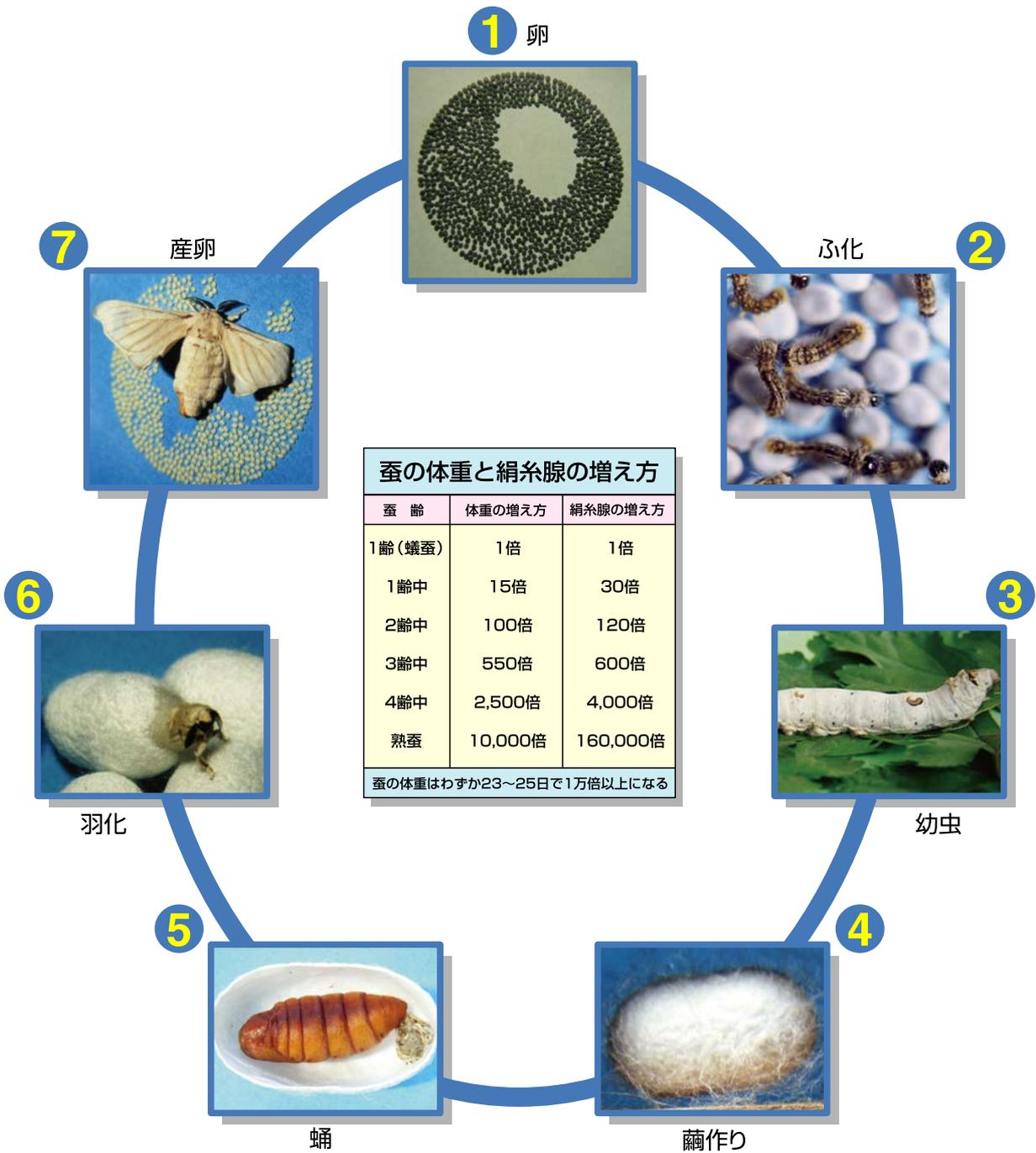
Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6). Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

The numbers of Production and Shipments of 3major producing areas are reported by their local unions.

Remarks : 1. Ratio to previous year in Nishijin may become incorrect if there is a correction in the statistical survey on the production dynamics of woven fabrics in Kyoto prefecture.

2. The data in the year between 2018 and 2021 have been corrected.

蚕の一生



協力:シルク博物館

一般財団法人 大日本蚕糸会

— 資料・海外 —

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2015年	2016年	2017年
日本	Japan	トン 135	トン 130	トン 125
中国	China	628,000		
インド	India	151,787	155,688	161,684
ウズベキスタン	Uzbekistan	27,237		
イラン	Iran	12,538		
タイ	Thailand	4,881		
ブラジル	Brazil	2,870	2,913	2,995
ベトナム	Vietnam	2,515		
北朝鮮	North Korea	937		
トルコ	Turkey	75		
ブルガリア	Bulgaria	65		
インドネシア	Indonesia	57		
シリア	Syria	3.0		
主要国の計	Total	831,100	158,731	164,804

区 分		2018年	2019年	2020年
日本	Japan	トン 110	トン 92	トン 80
中国	China			
インド	India	185,560	185,143	169,345
ウズベキスタン	Uzbekistan			
イラン	Iran			
タイ	Thailand			
ブラジル	Brazil	3,024	3,034	
ベトナム	Vietnam			
北朝鮮	North Korea			
トルコ	Turkey			
ブルガリア	Bulgaria			
インドネシア	Indonesia			
シリア	Syria			
主要国の計	Total	188,694	188,269	169,425

注 日本は(一財)大日本蚕糸会、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)及びFAOの統計値を使用し、2016年以降はデータが取れない。

Note Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture, however, there is no data available since 2016 Commission (ISC).

(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格
Spot Price of Various Silk Goods

2022年8月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	127.00 ~ 143.20	2,540 ~ 2,864
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	141.20 ~ 169.80	2,824 ~ 3,396
3	玉繭(double cocoon)		105.40 ~ 116.80	2,108 ~ 2,336
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	129.00 ~ 148.00	2,580 ~ 2,960
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	418.40 ~ 438.40	8,368 ~ 8,768
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	423.60 ~ 440.00	8,472 ~ 8,800
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	418.00 ~ 429.00	8,360 ~ 8,580
8	玉糸(doupion silk)	110d	420.00 ~ 440.00	8,400 ~ 8,800
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.00 ~ 44.00	800 ~ 880
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.00 ~ 65.00	1,180 ~ 1,300
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.00 ~ 53.50	960 ~ 1,070
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	40.60 ~ 45.50	812 ~ 910

注:1元=20円

1CNY=20JPY

2022年9月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	134.50 ~ 145.75	2,690 ~ 2,915
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	146.75 ~ 174.75	2,935 ~ 3,495
3	玉繭(double cocoon)		109.75 ~ 124.25	2,195 ~ 2,485
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	132.00 ~ 152.50	2,640 ~ 3,050
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	427.50 ~ 447.00	8,550 ~ 8,940
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	433.00 ~ 453.25	8,660 ~ 9,065
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	427.25 ~ 443.75	8,545 ~ 8,875
8	玉糸(doupion silk)	110d	431.00 ~ 445.00	8,620 ~ 8,900
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.00 ~ 44.00	800 ~ 880
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.00 ~ 65.00	1,180 ~ 1,300
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.00 ~ 53.50	960 ~ 1,070
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.00 ~ 45.50	820 ~ 910

注:1元=20円

1CNY=20JPY

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2022年10月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	135.50 ~ 146.25	2,710 ~ 2,925
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	148.25 ~ 176.25	2,965 ~ 3,525
3	玉繭(double cocoon)		113.00 ~ 128.00	2,260 ~ 2,560
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	133.50 ~ 156.00	2,670 ~ 3,120
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	427.25 ~ 445.75	8,545 ~ 8,915
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	431.00 ~ 452.75	8,620 ~ 9,055
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	428.00 ~ 445.00	8,560 ~ 8,900
8	玉糸(doupion silk)	110d	435.00 ~ 445.00	8,700 ~ 8,900
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.00 ~ 44.00	800 ~ 880
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.00 ~ 64.75	1,180 ~ 1,295
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.00 ~ 53.25	960 ~ 1,065
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.00 ~ 45.25	820 ~ 905

注:1元=20円

1CNY=20JPY

2022年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	135.00 ~ 145.00	2,700 ~ 2,900
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	148.00 ~ 174.20	2,960 ~ 3,484
3	玉繭(double cocoon)		111.40 ~ 127.40	2,228 ~ 2,548
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	139.40 ~ 170.40	2,788 ~ 3,408
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	425.00 ~ 442.20	8,500 ~ 8,844
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	428.80 ~ 449.20	8,576 ~ 8,984
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	427.40 ~ 445.00	8,548 ~ 8,900
8	玉糸(doupion silk)	110d	435.60 ~ 445.60	8,712 ~ 8,912
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	40.00 ~ 44.00	800 ~ 880
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	59.00 ~ 64.50	1,180 ~ 1,290
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	48.00 ~ 52.90	960 ~ 1,058
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	41.00 ~ 45.00	820 ~ 900

注:1元=20円

1CNY=20JPY

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<https://silk.or.jp>

シルクレポート 2023年1月号 No.76 令和5年1月1日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL : <https://silk.or.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず